

学科名	電気通信工学科						
科目名	計算機システム						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期		
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)/必修科目(電気エネルギーコース)/必修科目(情報システムコース)						
担当者	松崎 隆哲						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセッサの基本構成をブロック図で表現し信号の流れを説明することができる。(A8,A9,B4) ・プロセッサの基本的な命令の動きとデータの流れを説明できる。(A8,B4) ・アセンブリ言語の基本的な命令を用いたプログラムの動きを記述できる。(A8,B4) ・アセンブリ言語を用い少ステップのプログラムを記述できる。(B5,C2) 						
日程と内容	4/10 導入講義・コンピュータの構成について 4/17 コンピュータにおけるデータの取り扱い 4/24 計算機の構成・命令セット 5/1 ASCの内部構成 5/15 ASCの命令サイクル 5/22 ASCの命令実行(1) 6/5 ASCの命令実行(2) 6/12 命令とデータ 6/19 メモリアクセス手法 6/26 計算機シミュレータ 6/28 計算機シミュレータ(2) 6/28 計算機シミュレータ(3) 7/3 データ構造 7/10 総合演習1 7/17 定期試験 7/24 総合演習2						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習	30%					
授業到達目標の達成度	合格者によっては理解度に差があると思うが、合格者は授業の到達目標を達成しているといえる。						
反省点	プロセッサの内部構造に関して、個別の要素については理解できているようであるが、それが集まってどのような意味を持っているのかまでは十分に理解できていないようであった。						
来年度の計画	演習によって、プロセッサの内部動作について理解を深めていきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	コンピュータの内部構造を学ぶ基礎科目であるが、最近ではコンピュータの内部構造にはあまり興味が無いようで、授業内容に興味をもつようになったかの評価が3.7であった。さらに、時間外学習(授業外の予習・復習)が3.6と少ないことも、授業内容の理解が低い(3.8)理由と思われるので、コンピュータに興味を持ってもらうような方策を考えたい。						
履修登録者数	77名	定期試験 受験者数	70名	合格者数	51名	合格率	73%